

特集

アジア人度テスト ASEAN の国々について学ぼう！！

急速な経済成長をとげている
アセアン各国について、
簡単なクイズを解いて勉強してみましょう。



ASEAN (Association of Southeast Asian Nations) アセアンは、アジアの大国である中国とインドにはさまれた東南アジアの10ヶ国からなり、日本の約12倍の面積に約6億人が住んでいます。1967年、東南アジアの国々が協力しあい、地域の平和と安定を守るために設立されました。当初は、5ヶ国でスタートしましたが、徐々に加盟国が増えていき、現在の10ヶ国「ASEAN10」になりました。(日本アセアンセンター HP より)

さて、皆さんは ASEAN の国々についてどれだけ知っていますか？

クイズ1：以下のA国からJ国の国名を考えてみてください。

A国は赤道上に広がる17,000以上の島からなる国で世界最大の群島(ぐんとう)国家です。面積、人口(世界4位)、天然資源の量はアセアンの中で最大で、石油や石炭などが日本にたくさん輸出されています。国民の約90%がイスラム教徒ですが、300もの民族が6,000もの島々に暮らしていて、言葉や文化は地域によってさまざまです。首都(A1)は、近代的な新市街と伝統的な旧市街の二つの顔を持つ魅力的な街です。

中国との深いつながりを持つB国は、(B1)後に南北が統一されてできた多民族国家です。近年、目覚ましい経済発展を遂げたB国には数多くの外国企業が進出し、活気にあふれています。衣類や魚介類など多くのものが日本へ輸出されています。首都は、政治と文化の中心地で、フランス植民地時代に建てられた洋館や由緒ある寺院、美しい町並みなど、昔の面影を残しています。

C国は、昔はシャムと呼ばれ、東南アジアの中で植民地にならなかった、ただ1つの国です。国王は国民に大変尊敬されています。国民のほとんどは仏教徒で、男子は一生のうち一度は仏門に入り修行する習慣があります。どこへ行ってもきらきら輝く寺院が目にとまり、黄色の僧衣(そうい)をまわったお坊さんによく出会います。日本をはじめ、外国企業の受け入れを積極的に行い、

経済の発展に成功しました。日本へは魚介類をはじめ、テレビやオーディオといった工業製品などがたくさん輸出されています。首都は運河が多く、昔は「東洋のベニス」と呼ばれていました。今は昔の面影を残しながらも熱気あふれる近代都市として発展しています。

D国は、菱形をしたD島と周辺の63の島々からできていて、東洋と西洋の交差点に位置します。多民族国家で、中国系の人が約80%近くを占め、マレー、インド、ヨーロッパなどの文化が調和して、独特の雰囲気をつくり出しています。東京都より小さい島国ですが、貿易・金融の中心としてアセアンの経済をリードしています。海からの風と暖かい気候が一年中美しい花を咲かせ、ガーデン・シティと呼ばれています

E国は、11の大きな島を中心に、7,000以上の島々からなる群島(ぐんとう)国家で、「東海の真珠」と呼ばれています。アセアン唯一のキリスト教国で、国民の約90%が信仰しています。また、国民のほとんどが英語を話します。アメリカ、ヨーロッパ、アジアの生活様式と文化の影響を受けていて、特にスペインの文化と伝統が人々の日常生活の中に根強く残っています。

F国は、日本の約1.8倍の国土に約135以上の少数民族が住む多民族国家です。人口の約70%はビルマ族で、その他のシャン、カレン、モンなどの代表的な民族は、それぞれの名前のついた州に住んでいます。国民の約90%は敬けんな仏教徒で、国内には無数のパゴダ(仏塔)があります。お米を中心とした農業国で、人口の約60%が農業にたずさわっています。

G国は、イスラム教を中心としたマレー文化に、中国文化とヒンドゥー教の文化が混在している多民族国家です。それぞれの民族が独自の文化や伝統を守りながら暮らしています。天然資源に恵まれ、以前はゴムや錫(すず)などが主な輸出品でしたが、急速な経済発展を遂げ、今ではテレビやコンピューターなどの工業製品を多く輸出しています。首都は近代的なビル、庶民的な町並み、緑豊かな自然がとけあう美しい街です。

H国は、ベトナム、カンボジア、タイ、ミャンマー、中国の5カ国と国境を接する内陸国で、言葉や習慣が異なる約50の民族が暮らしています。日本の本州ほどの広さに、メコン川が南北にゆったりと流れて、川のほとんどはタイとの国境線になっています。高原、山岳地帯、メコン川といった自然に恵まれた農業国で、コーヒーは重要な輸出農産品です。国民のほとんどが熱心な仏教徒で、町のいたるところで僧侶たちの姿を目にします。

I国は、母なる大河・メコン川と、東南アジア最大のトンレサップ湖の恵みによる、豊かな自然が特徴です。山岳地帯には未開発の森林が残っていて、珍しい植物と野生動物の宝庫となっています。長い間内戦に苦しみましたが、1991年に平和を実現して、現在は国を挙げて再建に取り組んでいます。日本との関係が古く、朱印船貿易時代には日本人町がありました。

J国は、三重県ほどの小さな国で、ボルネオ島の北西海岸に位置しています。1984年にイギリスから独立して、国王によって統治されています。石油や天然ガスなどの地下資源に恵まれた豊かな国で、天然ガスのほとんどは、日本へ輸出されています。国民の生活水準と教育水準は高く、医療費や教育費はすべて無料です。(日本アセアンセンター HP より抜粋)

クイズ2：日本に来る ASEAN 各国からの留学生数は？

平成23年の ASEAN 各国からの日本への留学生数

1位 4033人 (A) 2位 2417人 (マレーシア) 3位 2396人 (B)
4位 2162人 (C) 5位 1118人 (D) 6位 498人 (フィリピン)
7位 326人 (カンボジア) 8位 248人 (ラオス) 9位 186人 (E)
10位 詳細不明 (ブルネイ)

ちなみに、現在の全体の1位は、中国、87533人、2位は韓国、17640人、3位は台湾4571人ですが、今後は ASEAN の国々の経済発展と共に留学生の増加も期待されています。(平成23年度 独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)調べ)

日本アセアンセンター

ASEAN の事をもっと知りたい。旅行に行ってみたい方必見！！



ASEAN 商品の展示・商談会や各種セミナー、ワークショップの開催、人材育成、ASEAN 文化交流イベント、各種出版物の発行および情報提供など多岐にわたる事業を行っている。

お問い合わせ：

〒105-0004 東京都港区新橋 6-17-19
新御成門ビル 1 階
Tel: 03-5402-8001
http://www.asean.or.jp

クイズの答えは、YOKOSOJAPAN.NET をご覧ください！！

住まいがすべての出発点

グローバルに不動産事業を展開するイチイグループ

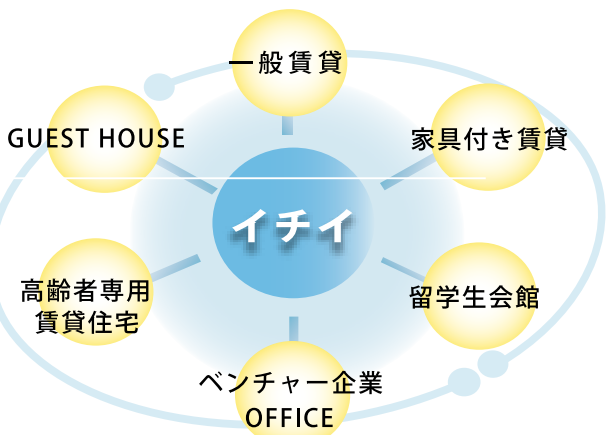
【営業拠点】

・海外

ソウル店
上海・北京店

・国内

五反田店
新宿店
池袋店
高田馬場店
吉祥寺店
秋葉原店
いわき営業所



ICHII

イチイグループ取扱い賃貸物件

- ・マンスリーマンション・ゲストハウス
- ・レンタルオフィス・デザイナーズマンション
- ・ミュージシャンマンション
- ・ペット共生型賃貸住宅・高齢者専用賃貸住宅
- ・家具付賃貸マンション・留学生会館
- ・マルチハビテーション
- ・一般賃貸(東京23区中心に約7000室)

STAFF 募集

- 一般賃貸事業 ■高齢者賃貸住宅事業
- マルチハビテーション事業

詳細はお問い合わせください。



■お問い合わせ

株式会社 イチイ

東京都新宿区新宿 6-7-1【設立】昭和55年
TEL: 03-5379-5272 (人事部)
http://www.ichii-re.co.jp
mail: hellowork@ichii-re.co.jp



日本の中の外国メディア

エスニックメディアは、
日本の中の海外を体験させてくれる貴重な存在



上から1段目、台湾、台湾報、スリランカ、ジャヤスリ、インド、マイトレイ・インド
上から2段目、ネパール、ハムロ・ネパール、インドネシア、メディア・ヌアンサ・インドネシア、ミャンマー、シュ
エバーマー、
上から3段目、ベトナム、ジャウ・リュウ、マレーシア、マレーシアタイムズ、タイ語 スーマイ・タイムズの9誌

日本に住む外国人の人口は、207万人を超え、東京・大阪の大都市圏では、10組に1組といわれる国際結婚などにより定住する人たちの割合も増えつつある。そして、その人たちに日本の生活情報や同胞のためのコミュニティ情報を提供すべく発達してきたのが在日エスニックメディア。在日外国人が急増した1980年代より増え続け、それぞれの国の飲食店やスーパー、国際交流センターなどで目にすることも出来るようになった。日本に留学に来て、就職や結婚して長期滞在をするものでさえも母国語での情報は貴重である。その種類は代表的なものだけでも全国で100種類を超える。媒体の形体も、新聞やフリーペーパー、ラジオ、テレビなど様々。その内容は、仕事や部屋の探し方、ゴミの出し方、トラブル時などの法律相談、母国のスーパー、飲食店などの生活情報の掲載から始まったが、最近は、国際交流ブームで、日本人の読者も増えており、日本語も併記するものも増えている。そして、広告主としては、国際電話の通信会社や旅行会社、不動産会社、金融機関、行政書士、美容院や医療関係も多い。在日外国人コミュニティは、同胞同士の結びつきが強い場合が多いので、口コミも大きなメディアのひとつだ。



その中でも、ユニークな会社が、在日新聞/外国紙10紙(月刊)を発行する株式会社ニューコム社。中国語(台湾語)・タイ語・ベトナム語・インドネシア語・ミャンマー語・フィリピン語(タガログ語)・マレーシア語・スリランカ(シンハラ語)・インド新聞(英語)・ネパール語で新聞を発行し、エスニックコミュニティ、特に東南アジアから来た人たち

にはなくてはならない存在になっている。ニューコム社発行の新聞の最近の特徴は、日本語でもそれぞれの国を紹介する記事が掲載されていることだ。一般誌ではカバーされない、アジアの国の情報や、日本国内の国際交流のイベント情報なども掲載され日本人の購読者も増えているという。このように今までは、単なるエスニックコミュニティの情報誌であったものが、日本人との交流媒体としても役目も果たしつつある。外国人の居住者が増えれば増えるほどエスニックメディアの重要性も高まり、在日外国人を将来性のある消費者マーケットとして捕らえはじめている業種も多い。特に非漢字圏から来た人たちには日本語だけの情報発信では十分とはいえない。エスニックメディアは、単体で見るとどれもそれほど大きな発行部数ではない。しかし、その情報の口コミ効果、母国への波及効果を考えるとこれからのグローバル時代には重要な媒体となって来るであろう。

自分が動かないと何もつかめない！！

留学生1・2年向けの実践的インターンシップ募集開始！！

どうして、1・2年生からインターンシップをするのか？

- 1：自分に何が足りないかを早い段階で知ることが出来る
- 2：責任のある仕事をするにおいて、人間的に成長できる
- 3：大人の社会でのコミュニケーションの仕方を知ることが出来る



昨年のインターンシップ及び勉強会・修了報告会の様子

詳しくは、yokosojapan.net をご覧ください。

ASEANの留学生インターン体験記

東京のミャンマー文化を取材



《サンジャさんと編集と取材の指導してくれた松尾さん》

お客様の喜ぶ顔が見たいと努力している人たちを見てすばらしいと思いました。これからは出来れば宅建の資格も取れるように勉強して、一人でも多くの人たちに役に立つ仕事がしたいと思いました。』

イスラム教への理解がうれしかった



《ASEAN FESTAにてお友達と》

私は日本に来て、すぐ寮に入ったので部屋探がしの経験はありませんが、インターンシップを体験して、住宅管理業についての知識が深まりました。日本とインドネシアの賃貸住宅事情の違いも分かりました。日本においては部屋探しをしている人は賃貸住宅の斡旋の会社を通して部屋を借りるといいます。しかし、インドネシアではそういう事もあります。日本のアパートのような部屋は主に大家さんから直接借りることが多いです。また、今まで味わった事の無い日本の会社での社会人の生活も体験できました。また、インターンシップに挑戦して15人の社員方のインタビューをし、その方法や、レポートのまとめ方も学びました。社長をはじめ社員の皆様があたたかく接してくださったので、大変な仕事でも全然苦にならず、楽しく取り組む事ができました。特に、イスラム教の私の為にお祈り時間と場所を配慮していただいて、とてもありがたかったです。また、インタビューの準備からレポートにまとめ方まで、丁寧に指導していただき、感謝しています。今回のインターンシップは本当に貴重な経験だと思います。



カリナさんが受け取ったインターン修了証書

GLOBALCOMMUNITY 推薦図書

* 社会に出る前に必ず読んでおきたい *

日本発の公益資本主義で「壊れた経済を立て直す！」



——これからは、「マネーゲーム」ではなく、時間をかけて価値をつくり出す「実業」を経済の中心に据えなければならない。「実業」が生み出す価値の対価として人びとが利益を獲得し、その利益が社会の公益のためにうまく還元される新しい資本主義を設計・実践することが必要である。それができるのは、日本だ。——
欧米で活躍する「日本一の事業家」原文丈人と、「日本一の金庫番」金見昭が、資本主義から人生論まで縦横無尽に語り尽くした、体験的提言集。
他人が作ったルールに乗っかるより自分がルールを作ったほうがいいですね。日本人にはその能力があると思います。既存のルールが正しいとは限りません。新しい資本主義の形を日本人が世界に先駆けて作ろうという気持ちのいいお話。

『世界で先頭に立つ勇気を持とう！！』 キャッチアップからフロンランナーへ



高齢化が加速する日本で求めるのは、物ではなく、美しい自然環境、食料の安定供給。年齢を重ねても新しいことが学べる教育の仕組み、自分に合った治療を安価に受けられる医療体制などの新しい仕組みや新しい社会だ。少子高齢化、低い食糧自給率、環境問題など、たくさんの難しい問題を抱える日本は『課題先進国』。しかし、世界に先駆けてその問題を解決すれば、世界になくはない国になれるはず。前例が多くない分野なので若い人たちにも多いにチャンスがある。自らが抱えている課題から逃げずに立ち向かえば得るものはとても大きい。ピンチに強い日本人が活躍する時代の到来だ！！将来に野望を持っている若者にぜひ、読んでほしいと東大の元総長の著者が言っている一冊。